

unysizeSDK for iOS SwiftUI 用サンプルコードについて

unysizeSDK for iOS を SwiftUI のプロジェクトで unysize の各機能を利用するための簡単なサンプルアプリケーションのプロジェクトです。 unysizeSDK を SwiftUI で実装する場合の実装サンプルとして、また、機能テスト用としてご利用いただけます。

※ SDKに付属している「導入手順」「SDKリファレンス」も合わせてご確認ください。

使用しているSDK

- unysizeSDK for iOS Swift (v2.0以降)
 - ※ unysizeSDK の利用には unysize が発行したクライアント識別ID (CID) が必要です。

プロジェクト内の主なファイル

- ContentView.swift / UnysizeBannerWebviewRepresentable.swift
UnysizeBanner Class の実装を確認いただけます。
- CVTagTestView.swift
UnysizeCVTag Class の実装を確認いただけます。

プロジェクトの設定

USBでiPhone実機を繋いで起動する場合は、事前に
プロジェクトの設定 > Signing & Capabilities の Siging > Team
を設定して下さい。

unysizeバナーの表示テスト

unysizeSDK Sample App > unysizeSDK Sample App > ContentView.swift
L6～

下記の部分に「クライアントID」、「アイテム識別ID」を設定して起動して下さい。
unysizeバナーが表示されます。

```
@State private var cid: String = "" // クライアントID
@State private var itm: String = "" // 商品識別ID
@State private var cuid: String = "" // ECサイトのユーザー識別ID
@State private var lang: String = "" // 表示言語 (Default : "ja")
```

CVタグの発火テスト

unysizeSDK Sample App > unysizeSDK Sample App > ContentView.swift
L196

下記の部分に「クライアントID」、「ECサイトのユーザー識別ID」、「購入ID」、「商品ごとの購入数」、「商品識別ID」、「商品ごとの価格」、「サイズ情報 (商品ごと)」を設定して起動すると、画面表示時にCVタグが発火します。

```
var cid: String = "" // クライアントID
var cuid: String = "" // ECサイトのユーザー識別ID
var purchaseid: String = "" // 購入ID
var itemnum: [String] = [] // 商品ごとの購入数
var itemid: [String] = [] // 商品識別ID (商品ごと)
var price: [String] = [] // 商品ごとの価格
var size: [String] = [] // サイズ情報 (商品ごと)
var iteminfo: String = "" // ※通常は使用しない
var iteminfojson: String = "" // ※通常は使用しない
var regType: String = "" // ※通常は使用しない
```

- 送信すると実際に購入として集計されるため、起動する場合は、unysize が発行したテスト用クライアント識別ID (CID) を使用して実行して下さい。
- iPhone 端末と Mac を繋いで Safari を使った開発モードを使うと、開発ツールのネットワークタブでトラッキングが送信されているかの確認が可能です。「tracking」という項目を選択すると送信された情報などを確認できます。